

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	三宅恵里子	市確認欄	
専門部会名	第1回	権利擁護部会	
日時	令和7年5月19日(月) 10時30分～11時45分		
会場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8名		事務局 6名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会員自己紹介 2 本年度の部会の進め方について 3 全体会の報告 4 本年度の取組みについて 5 本日のまとめ、次回の検討課題について 		
報告・検討の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会員自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の部会員の自己紹介を行った。 2 本年度の部会の進め方について (日岡) <ul style="list-style-type: none"> ・4つの部会が抱える課題の共有と、議論の前進の第1歩とすべく、全体会を発足させ、第1回目を令和7年4月22日に開催したことを報告。専門部会については、各部会で協議すべき内容に応じて回数を決定したことを報告。本部会は5回を予定(内、2回は行事)する。 ・本年度の体制は、部会回数が減ったことにより開催日までに協議すべき点ができただけの場合は電子連絡帳ヘルピーネットやメールを活用し意見を徴取する。部会の最後にその日の協議内容を振り返り、次回の協議内容を確認し、その後意見を徴取し、次回までに内容をまとめるような流れにしていく。 ・ヘルピーネットについて未登録の事業者への登録を促進し、将来的にヘルピーネットを利用して、支援対象者の情報共有ができるようになることを目標にしていきたい旨を説明。(渥美) 3 全体会の報告 (桂川) (資料1, 2参照) <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換にて、意思決定支援についての再認識の必要性や、全体的な底上げが出来ると良い。就労と放課後等デイサービスとの繋がりについて、社会スキルの向上が就労に繋がるという意見があった。関係機関と情報を共有するツールの必要性について協議した。 ・それぞれの意見を各部会に持ち帰り本年度の取組みとして取り入れていくことになった旨を報告。 		

4 本年度の取組みについて

(1) 災害時支援について実施するアンケート内容の検討 (資料3参照)

- ・ 前回のアンケート項目にあった (避難所を利用しようと「思わない」「分からない」) の理由を改めて聞きたい。
- ・ 避難するためにどういう環境が必要か全体に向けリサーチし、どのように市にアプローチしていくかを目的としたアンケートとしたい。
- ・ アンケートの回答によっては福祉避難所の開設への必要性を訴える材料にもなる。
- ・ 当事者側も情報を他者に伝達出来るよう準備しておいて欲しい。アンケートはそれを認識する意味合いもある。

(アンケートの項目について)

- ・ 当事者や、高齢になっている保護者は文章表記が苦手で、具体例を箇条書きし丸付けの方が記入しやすい。直接、聞き取ったら答えられる場合もある。
- ・ どういった配慮があれば避難所に行けるのか?の項目があると良い。
- ・ 行かない理由を自由記述にして、細かいところまで聞き取れるようにする。
- ・ 障害種別について、それが分かることで避難所を利用しない回答の趣旨が見込めるため必要とする。
- ・ イメージし易くするため倒壊した家や避難所の写真や絵などをのせる。
- ・ 実際に避難所に向かうまでの支援をしてくれる人が居るかの確認が必要。

(避難所について)

- ・ 強度行動障害の方は避難所に行くことも難しいため、福祉避難所に優先して受け入れが必要なのではないか。
- ・ 避難所を利用しない理由として想定されるのは、家族が居ない、職員が付いていけない、見通しが持てない、どう過ごせば良いか分からなくて不安等。
- ・ 当事者自身の特性を示すアセスメントツールを作ることで、どこへ避難しても役立つかもしれない。
- ・ 市として、今年度の避難所開設運営訓練は全ての小学校で一斉に実施される予定。福祉避難所の開設・運営というよりは避難所から福祉避難所 (保育園) に移送する時のやり取りの確認になるような情報があるが決定ではない。

→ 意見を集約してアンケートを再作成。ヘルピーネットでも意見徴取する。

(2) 虐待防止勉強会について (森田)

- ・ 5/21に4法人で打ち合わせ予定。
- ・ 前回参加者に向けたアンケートからコミュニケーションについて学びたい旨の意見が多くあった。意思決定支援に触れた内容でコミュニケーションに焦点を当てる。
- ・ 次回打ち合わせで講師の案を出す。

講師候補; 林ともみ氏

前回の虐待防止勉強会講師の林大輔氏 (たくと大府)

倉島昌之氏 (豊田市第二ひまわり)

(3) 障害者差別解消法について (渥美)

- ・昨年度は、市民まつりでボッチャを通して啓発活動を行った。災害・権利擁護に関する部分で障害理解が必要と考え、部会と協力して取り組みたい。
- ・昨年度の反省として、当事者の参加が難しいことが判った。ボッチャが全面に出てしまい差別解消法の内容はパンフレット配布・パネル展示のみだった。
- ・本年度もボッチャ、パンフレットの配布、パネル展示。愛知県ボッチャ協会への運営依頼を継続するが去年と違う趣向で行いたいため、アイデアが欲しい。
- ・現案は、疑似体験セット、車椅子に乗るなどが出ている。
- ・講師に岩井まゆみ氏に依頼はどうか。健常から難病になり車椅子生活で、現在ボッチャの選手、鳴子の指導者でもある方。鳴子であればどの方も馴染みやすい。
→プロのボッチャ選手であり依頼に手続きが必要。
- ・昨年度は子どもの参加が多かったため、教室内で落ち着かない児、教室内に居られない児など発達障害のある児に対する配慮事項はどうか。子ども同士が理解し合えるような内容、身近な内容、学校生活で行われている合理的配慮のクイズなどはどうか。
- ・障害者のイメージとして目で見て分かり易い人に焦点が向けられがち。
- ・ファミリーステーション Rin のわいわいフェスティバルでは、クイズに参加し参加賞としてお菓子がもらえるものにした。パネルの内容からクイズに答える、パネルを読むと答えが書いてある等はどうか。
→今後、愛知県ボッチャ協会と打ち合わせをする。市民まつり当日、部会員に協力を依頼する予定。

5 本日のまとめ、次回の検討課題について (森田)

- ・災害時支援について、本日の意見を集約し事務局でアンケート作成。部会員に再度周知し意見を徴取する。次回9月の部会開催時に完成したものを部会員に配布。各事業所でアンケートを配布し、その後集計を取り今後の方向性を決める。
- ・虐待防止勉強会開催は令和8年1月31日を予定。4法人の打ち合わせ内容を9月の部会で報告する。
- ・障害者差別解消法の事業関係について動きがあればヘルピーで報告する。
- ・本年度部会日程の確認 (資料4)
- ・随時、ヘルピーネットでの供覧を確認して頂く。それに対して意見が無くても賛同であれば「いいね」を押すよう依頼。ヘルピーネット登録が難しい方はメールで伝達する。
- ・昨年度はイベント (市民まつり・勉強会) に部会員として参加していただいても報酬はなかった。本年度からは協力頂いた事業所に対して報酬が出るように調整した。(日岡)
- ・令和8年3月の全体会で権利擁護部会として何を提案していくか、全体会をどういうポジションで動かしていくかを今後考える。

	・本日の報告書は2週間後を目途にヘルピーネットで上げるため確認をお願いしたい。
提出書類	別添のとおり
次回開催日時	令和7年9月17日(水)
次回会場	障害者福祉センター

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第1回	権利擁護部会
日時	令和7年5月19日(月) 10時30分～11時45分	
会場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 下山 貴弘	
② 安江 真吾	
③ 森田 沙弥香	
④ 鈴木 香織	
⑤ 高木 祥行	
⑥ 奥田 洋子	
⑦ 磯畑 香苗	
⑧ 鈴木 重行(欠)	
⑨ 福田 有輝	
⑩ 志水 くに子(欠)	

(事務局)

① 渥美 則親	② 八木 柚月(欠)
③ 宇佐美 香津美	④ 日岡 由季枝
⑤ 桂川 斐斗美	⑥ 三宅 恵里子
⑦ 山 歩美	⑧

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	三宅恵里子	市確認欄	
専門部会名	第2回	権利擁護部会	
日時	令和7年9月17日(水) 10時30分～11時45分		
会場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8名	事務局 6名	
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害時支援について 2 障害者虐待防止法勉強会について 3 障害者差別解消法の啓発について 4 本日のまとめ、次回の検討事項の確認について 		
報告・検討の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害時支援のアンケートについて (資料1, 2参照) <ul style="list-style-type: none"> ・9月中旬に市内障害福祉サービス事業所に配布、11月末回収。12月中に回答集計し、2月の部会で結果をもとに次年度の方向性を決めていく。 2 障害者虐待防止法勉強会について (資料3参照) <ul style="list-style-type: none"> ・講師と講義内容(意思決定支援におけるコミュニケーション)を調整中。 ・チラシ完成後、周知をしていく。 ・当日部会員の参加者は、下山・磯畑・高木、福田(13時まで)。 <ol style="list-style-type: none"> (1) シンポジウム内容 <ol style="list-style-type: none"> ① シンポジストに予めコミュニケーションについてテーマを提示する。 ② 支援中、そのテーマに着目して取り組む。 ③ テーマに取り組む前と後で、利用者がどのように変化したか(意思の表出や関わり方)、支援者側の気付きや意識の変化について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・次回の打ち合わせ時にシンポジストも参加し、内容をすり合わせる。 (2) 動画の公開範囲について <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は講義を録画し後日配信した。今年も動画配信予定。動画視聴可能とする方は申し込みした人限定にするのか、幅広く視聴可能とするのかを検討した。 ・誰でも視聴可能にすると来場するメリットが薄れて、申込者が減るのではないか。申し込んでくれた方に視聴してもらいたいという主催側の意思表示でもある。 ・動画配信は講義のみとし、シンポジウム・グループワークは配信するかを検討した。 ・全公開にすると見ている人は数でしか分からず、市内事業所の誰が 		

見ているか把握が出来ない。

→今年も昨年度同様、申込の方のみ限定公開とする。動画視聴希望者のみ締切後でも受け付ける。

シンポジウムの公開については、次回打ち合わせ時にシンポジストに確認を行う。

3 障害者差別解消法の啓発について（資料4参照）

- ・昨年度は来場者 250 名で、家族連れや小学生、園児といった子供が多かった。今年度は 250 名想定とする。
- ・昨年度はボッチャの後にアンケートを行った。今年度はボッチャの後にクイズを行う案が出ている。
- ・部会員の方で当日スタッフとしての参加者は、午前(10-12 時)、午後(13-15 時)の 2 時間ずつを担当。受付に 1 名、アンケート・クイズ対応 1, 2 名で対応。

→当日参加者 午前：鈴木重・磯畑。

午後：鈴木香・下山・森田。

センターから 5 名参加。

当日の詳細は渥美さんより連絡する。

(1) クイズについて

- ・差別解消法のパンフレットを大型パネルにして掲示し、その内容からクイズを作成し答えるのはどうか。
- ・クイズを行うスペース、時間が必要なため難しいのではないか。
- ・何を知ってもらいたいか、何を持って帰ってもらいたいか。子どもにとってパンフレットの内容は難しい。「思いやりをもって接しよう」という内容を伝えたい。困っている人に対して出来ること、身近なことや小さなことでも良いから考えてもらうのはどうか。
- ・パネルを読んだ率直な意見として、どう思ったかをアンケートに自由記述で書いてもらうのはどうか。どんな事をしたことがあるか？なども聞く。
- ・待ち時間にアンケート（付箋添付したもの）を渡して、他の方が書いたもの（記入例を事前に貼っておいたもの）を見ながら考え、意見を付箋に記入してもらい各自で壁に貼る。他者の意見も見えるようにする。
- ・パンフレットにある、障害者に対するマークを使ったクイズはどうか。ヘルプマークだけで良いのでは。見えない障害への理解を伝えたい。

→①クイズでヘルプマークを取り上げる。答えは、めくると書いてある形式。

②今まで、困っている人にどんなことをしたことがあるか。もしくはどんなことが出来るか意見を書いてもらう。

- ・差別解消法の冊子のヘルプマーク（説明書き）の部分のみパネルにする。

4 本日のまとめ、次回の検討事項の確認について

- ・災害時のアンケートを近日中に各事業所に配る。
- ・虐待防止勉強会のチラシが完成次第、周知を行う。
- ・差別解消法の啓発の取り組みは、ボッチャとクイズを行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年3月に部会全体会議がある。そこで今年度の権利擁護部会の取り組み内容を伝える予定。そのため災害時アンケートの結果を取りまとめ、今後の方向性の検討が必要。今後の方向性については、部会員にヘルピーネットで意見を収集し、意見をもとに令和8年2月の部会の時に方向性を決める。そのため2月部会の事前資料を早めに送るので目を通して部会に参加頂きたい。 ・以前、避難所開設訓練で障害のある方の特性について伝わりにくく、ツールの必要性があがった。災害時アンケートの集計結果次第で、次年度はツール作りに取り組む。 ・意思決定支援の取り組みについて。虐待防止勉強会を通して意思決定支援について学び、各事業所ならびに市全体の支援の質の底上げにつなげる。 ・市内の事業所が増えているが、どこも人材育成が追いついていない現状。人の入れ替わりが激しく、人材が定着しない。そのため人材育成に繋がらない。定着し易い仕組み作りが必要。ケアマネ部会の内容になるため、3月の部会全体会議で意見として投げかけ、権利擁護部会では何が出来るか考えたい。
提出書類	別添のとおり
次回開催日時	令和8年2月16日（月）
次回会場	障害者福祉センター

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第2回	権利擁護部会
日 時	令和7年9月17日(水) 10時30分～11時45分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 下山 貴弘	
② 安江 真吾(欠)	
③ 森田 沙弥香	
④ 鈴木 香織	
⑤ 高木 祥行	
⑥ 奥田 洋子	
⑦ 磯畑 香苗	
⑧ 鈴木 重行	
⑨ 福田 有輝	

(事務局)

① 渥美 則親	② 八木 柚月
③ 宇佐美 香津美	④ 日岡 由季枝
⑤ 桂川 斐斗美	⑥ 三宅 恵里子
⑦ 山 歩美(欠)	⑧

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	桂川斐斗美	市確認欄	
専門部会名	第3回	権利擁護部会	
日時	令和7年11月16日(日) 10時00分～15時00分		
会場	日進市スポーツセンター 第2競技場		
出席者	部会員 4名		事務局 5名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
次第	1 障害者差別解消法の周知・啓発について		
報告・検討の内容	<p>1 障害者差別解消法の周知・啓発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法の周知・啓発を目的に、にっしん市民まつりにおいてポッチャイベントを実施。 ・障害理解を深めることを目的に、ヘルプマークのパネル、障害者マークの冊子を設置。 ・市民の方には、ポッチャを体験していただいた後、アンケートにご協力いただき、併せて「障害のあるなしにかかわらず、みんなが笑顔で暮らせる社会を作るためにあなたはどんなことが大切だと思いますか？どんなことができると思いますか？」というテーマについて考えてもらった。 		
提出書類	別添のとおり		
次回開催日時	令和8年1月31日(土)		
次回会場	日進市民会館 小ホール		

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第3回	権利擁護部会
日 時	令和7年11月16日（日）10時00分～15時00分	
会 場	日進市スポーツセンター 第2競技場	

専門部会員	その他参加者
① 下山 貴弘	
② 安江 真吾（欠）	
③ 森田 沙弥香	
④ 鈴木 香織	
⑤ 高木 祥行（欠）	
⑥ 奥田 洋子（欠）	
⑦ 磯畑 香苗	
⑧ 鈴木 重行（欠）	
⑨ 福田 有輝（欠）	

（事務局）

① 渥美 則親	② 八木 柚月
③ 宇佐美 香津美（欠）	④ 日岡 由季枝
⑤ 桂川 斐斗美	⑥ 三宅 恵里子
⑦ 山 歩美（欠）	⑧

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	三宅恵里子	市確認欄	
専門部会名	第4回	権利擁護部会	
日時	令和8年1月31日(土) 9時00分～13時00分		
会場	日進市民会館 小ホール		
出席者	部会員 2名		事務局 3名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ なし		
次第	<p>障害者虐待防止法勉強会</p> <p>1 講義テーマ「意思決定支援におけるコミュニケーション」 講師：社会福祉法人 豊田市福祉事業団 豊田市障がい者総合支援センター 第二ひまわり 主任 倉嶋 昌之 様</p> <p>2 シンポジウム 3 グループワーク 4 質疑応答 5 講師、理事長より総評</p>		
報告・検討の内容	<p>開催時間： 午前9時25分～午後12時30分 場所： 日進市民会館 小ホール 参加者： ポレポレ 49名 きまもり会 34名 あじさいの会 9名 名東福祉会 9名 部会募集枠 22名 部会員 2名 事務局 3名 合計 128名</p> <p>研修内容 講義テーマ「意思決定支援におけるコミュニケーション」 社会福祉法人 豊田市福祉事業団 豊田市障がい者総合支援センター 第二ひまわり 主任 倉嶋 昌之 様</p> <p>内容 ・障害者虐待防止法制定までの経緯 ・ソーシャルワークの展開過程における意思決定支援 ・ソーシャルワークにおけるコミュニケーション</p>		

シンポジウム

- ・ 4 法人から一人ずつシンポジストとして登壇。3～4 か月間、支援においてコミュニケーションを変えることで見られた変化の実践報告を行った。

<シンポジスト>

① 名東福祉会 脇本氏

問題行動の記録をとり、出来る限り制止をしない支援を心掛けた。→問題行動の理由が明らかになり、回数も減った。問題行動に変わるコミュニケーション方法も検討出来た。

② きまもり会 加藤氏

ご利用者の好みを知ったり、マンツーマンで話をするなど、コミュニケーションの機会を増やした。→職員からの促しを聞けるようになったり、自分から関わりを求めるようになった。選好シートを活用する、ストレングスなど日々の些細なことを職員間で情報共有することの大切さを改めて知った。

③ ポレポレ 曾我氏

強みを活かした内容の声掛けにしたり声掛けのタイミングを変えた。→気持ちの切り替えが出来たり、集団行動が出来るようになった。コミュニケーション一つ変えるだけでご利用者の行動変容に繋がることを知った。

④ あじさいの会 磯村氏

始めはグループホーム入居に抵抗があったが、担当者会議を行い情報共有し、グループホームのメリットや体験を勧め、入居に至った。その都度、気持ちに寄り添い、悩みを一緒に考える支援を行った。

<講師総評>

- ・ 本人の視点を大切にする、行動から意味を探るといった、その方の意思がどこにあるかを諦めずに取り組んでいることが大切である。本人の行動を否定しない、知ろうとする、認めることがご利用者の変化に繋がっていったと思われる。デマンドとニーズを明確にし、その方の望む生活を支えるため意思決定支援を繰り返し行っていきながら、丁寧にコミュニケーションをとり、強みを活かした支援を行っていくことで、虐待防止にも繋がっていくと思われる。

グループワーク

テーマ「支援の中で直面した困難や成功体験を共有しながら、意思決定支援やコミュニケーションを振り返り、今後の関わり方を考える」
予め振り分けておいたグループで話し合いを行った。

(1 グループ 5～6 名)

※時間の都合で発表は無し。

<法人理事長総評>

ポレポレ石井理事長より

- ・ 昨年 6 月に同法人にて虐待事案があがった。管理者が通報し、その後の対応を行ったが、その管理者はこれまで自分が虐待を防ぐための役割を十分果たしてきたのかどうか、常に悩み苦しみ、落ち込んだりする姿を見てきた。その後、通報を受けた職員は離職した。当事者はもちろん、職員にとっても悲しい出来事であり、今後、絶対に虐待を起こしてはいけないと強く感じ、法人内でも話し合いや取り組みを実施

	してきた。この研修を振り返り、日々の支援に活かして欲しい。 ※講義、シンポジウムを動画に撮り、後日動画視聴希望者に配信予定。
提出書類	別添のとおり
次回開催日時	令和8年2月16日（月）
次回会場	障害者福祉センター

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第4回	権利擁護部会
日時	令和8年1月31日(土) 9時00分～13時00分	
会場	日進市民会館 小ホール	

専門部会員	その他参加者
① 下山 貴弘	
② 安江 真吾 (欠)	
③ 森田 沙弥香 (欠)	
④ 鈴木 香織 (欠)	
⑤ 高木 祥行 (欠)	
⑥ 奥田 洋子 (欠)	
⑦ 磯畑 香苗 (欠)	
⑧ 鈴木 重行	
⑨ 福田 有輝 (欠)	

(事務局)

① 渥美 則親 (欠)	② 八木 柚月 (欠)
③ 宇佐美 香津美	④ 日岡 由季枝 (欠)
⑤ 桂川 斐斗美	⑥ 三宅 恵里子

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	三宅恵里子	市確認欄	
専門部会名	第5回	権利擁護部会	
日時	令和8年2月16日(月) 10時30分～12時00分		
会場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 7名		事務局 6名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
次第	1 今年度の取り組みについて (1) 災害時支援について (2) 障害者虐待防止法勉強会について (3) 障害者差別解消法の啓発について (4) 全体会について 2 1年の振り返り 3 本日のまとめ、次回の検討事項の確認について 4 その他 来年度のスケジュールについて		
報告・検討の内容	1 今年度の取り組みについて (1) 災害時支援について (資料1) ①アンケート結果をもとに来年度の取り組みについて検討 ・避難所利用の際に配慮してもらいたいことをまとめる、アセスメントツールの作成に取り掛かる。アセスメントツール完成後の注意点として、内容について、家族と事業所との意見の相違が発生する可能性がある。避難所(集団)で安心して過ごせることが目的となるため、集団生活での情報が必要となる。当事者(家族)が書き込んだあと、事業所でも確認し修正しながら内容を詰めたい。アセスメントツールは、当事者が各自で様式からダウンロードして、記入頂く予定。 ・福祉避難所については、今後権利擁護部会とは切り離して考え、市でプロジェクトが立ち上がる予定。福祉避難所の初回打ち合わせが3月13日(金)と伺っている。 (2) 障害者虐待防止法勉強会について (資料2) ①アンケート結果をもとに振り返り ・意思決定支援を中心とした内容で行った。前回の研修アンケートから、日頃から当事者とのコミュニケーションが難しいとの意見が多かったためコミュニケーションを取り上げた。 ・講義の内容は、意思決定支援について支援経験が浅い方にも分かり易いよう配慮した。シンポジウムでは、対象の当事者について		

令和7年10月～令和8年1月頃の期間にコミュニケーションにまつわる情報を収集しながら記録をとり、その実践報告をした。記録をとった期間は短期間だったが、当事者はもちろん職員にも多くの変化が見られ、思った以上の成果だった。

- ・アンケート集計では、「意思を汲み取りながら支援を行っている」の回答が64%だった。果たしてそれが意思決定に繋がっているのか、分かったつもりになっていないか。経験がある職員ほど先入観がある。アンケート結果から、デマンドとニーズを分けて考えられるような視点や、アセスメントを更新し続ける仕組み作り、当事者を理解しようとし続けることの必要性があがった。

②来年度の取り組みについて検討

- ・令和8年9月19日(土)開催予定。3月13日の4法人との振り返りで来年度の内容を詰めていく。
内容について、意思決定支援の内容で2年やってきたが、来年度は虐待防止の内容で行う。おのずと意思決定支援に結びついてくる。

(3) 障害者差別解消法の啓発について (資料3)

①参加報告

- ・令和7年11月16日(日)の市民まつりにてボッチャの体験イベントを開催。参加者が120名、参加人数がまつり全体でも昨年よりも少なかった。ボッチャの他に、パネル展示、アンケート、ヘルプマークの周知を行った。

・アンケート集計より

合理的配慮の言葉を回答者の半分程の方が知らなかった。今後、市民向けの周知の必要性がある。

・部会員より

ボッチャ体験で終わり、差別解消法と結びつけることは難しかった。障害者理解を深めることには繋がらなかった。

待ち時間が無かったこともあり、パネルを見る人がほぼ居なかった。

パネルを見る仕掛けが必要だった。

アンケートを書く時に、親子で真剣に考えていた。障害者理解について考える機会となった。

障害のある方と市民の方とが交流しながら理解を深める機会が持てると良い。

身体障害の方など、目で見える障害は理解され易い。見た目では分からない発達障害や精神障害の方への理解の周知について難しさを感じる。

②来年度の方針について検討

- ・市民まつりでの参加は今年度で終了とする。来年度は12月の障害者週間で取り組む予定。

(4) 全体会について

- ・令和8年3月17日(火)13:30～15:00予定。
- ・権利擁護部会だけでなく、全体で取り組むべき課題(意思決定支援)を部会全体で共有する。
- ・研修は、子どもの時から大人になった時をイメージし、総合的に

取り組む必要性を共有する。

2 1年の振り返り

- ・虐待研修を開催したが、大人の事業所職員が多く参加している。大人も子供も総合して考える機会としたい。意思決定の形成の部分は幼少期から着目して取り組むことが重要。部会全体で共有していきたい。
- ・サービス利用にあたり計画作成の際、家族の意向を汲み取って計画が立てられることが多い。当事者の思いと家族の考えは違うことも多く、家族は大人になった今の我が子の意思を汲み取れていないと感じる。家族に向けた意思決定支援の普及・啓発が必要である。家族の気持ちを受容しながらも、日頃から意識して本人の意思を確認する姿勢を心掛けなければいけない。本人主体の支援に変えていく必要がある。
- ・新規サービス利用の場合に、課題について家族の問題やこれまでの背景が影響していることが多いが、その情報が特に少ないと感じる。学校や放課後等デイサービスでの情報を収集し、次の事業所に引き継いでいくためにも相談員に情報提供して欲しい。事業所は、日々の支援から得た情報を吸い上げて相談員と共有する責任がある。その結果、アセスメントを更新し続けることに繋がる。
- ・虐待防止について、日常での早期発見が重要である。各事業所は、実際に虐待発見場面からの流れを職員間で共有していく必要がある。虐待通報を受けた行政は早急に判断して欲しい。まずは通報が大切であり、通報が無ければ権利擁護に繋がらない。
- ・日進市は虐待認定件数も通報件数も少なく、早期発見に繋がっていない。意識的に慢性化する傾向にあるのではないか。通報となると慎重になるため、今よりも気軽に虐待について相談が出来る機会があると良い。
- ・以前、事業所内で虐待通報を行ったが関係職員の離職に繋がるからと、市の判断は虐待認定にはならなかった。今後、職員にとって、虐待の線引きが曖昧になり、判断が甘くなるのではないか。市の虐待認定の線引きが分かりにくい。
- ・今年度、事業所内で地域連携推進会議が執り行なわれた。地域の方々に事業所内に入っただき、以前よりも風通しがよくなったと感じる。引き続き、当事者の権利擁護に取り組みながら、職員が安心して働ける環境作りも行っていく。
- ・地域の中で障害のある方が地域参加している姿をあまり見ない。家庭内に留まっている当事者が、早期に専門職に繋がる仕組み作りが必要であり、それは地域の活性化にも繋がっていく。災害時アンケートの回答に、災害時に民生委員の方の支援を受けるとあった。その方が民生委員と繋がった経緯を掘り下げて聞けると、地域と繋がるヒントになるのではないか。地域と繋がるような周知啓発を行っていきたい。
- ・障害者差別解消法や合理的配慮について市民に周知していく難しさを感じた。イベント時の啓発は、基本的には参加者は楽しみながら障害理解に触れるきっかけ作りが必要ではないか。また、ヘルプマークの周知の必要性も感じる。今後、愛知県がパーキングパーミット制度を開始する。
- ・日頃から、当事者の問題行動に着目しがちであるが、感情が行動に表れるということが抜けている。普段から、その方の感情を知るために

	<p>も関係機関である事業所間で、しっかりと連携を行い、意思を汲み取る努力をし続けなければいけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局として研修開催にあたり、前回のアンケートから研修で取り上げてほしい内容で研修を行っても、申込者数が伸びない課題がある。研修にご参加頂きたい対象の方達に参加に繋げる難しさや、権利擁護部会としての研修内容のテーマの範囲にも難しさを感じる。 ・事業所によって、支援への意識の低さを感じる事がある。 ・課題について協議し共有することが大切であり、部会だけでは終われない部分もある。協議したことを共有するためにヘルピーネットが活用出来る。虐待防止・意思決定支援については、障害のある無しに関わらず子どもの時から意思が尊重されること、権利が守られているということを伝えていきたい。 <p>3 本日のまとめ、次回の検討事項の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時時支援について、アセスメントツールの作成に取り組む。 ・障害者虐待防止法勉強会について、令和8年9月19日（土）に開催。 ・障害者差別解消法の周知啓発について、12月の障害者週間での周知を予定。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度のスケジュール（資料4） ・来年度の部会長はファミリーステーション Rin 磯畑さん、副部会長はポレポレ鈴木さんに決定。
提出書類	別添のとおり
次回開催日時	令和8年5月18日（月）
次回会場	障害者福祉センター

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第5回	権利擁護部会
日 時	令和8年2月16日（月）10時30分～12時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	その他参加者
① 下山 貴弘	
② 安江 真吾	
③ 森田 沙弥香	
④ 鈴木 香織	
⑤ 高木 祥行（欠）	
⑥ 奥田 洋子	
⑦ 磯畑 香苗	
⑧ 鈴木 重行（欠）	
⑨ 福田 有輝	

（事務局）

① 渥美 則親	② 八木 柚月
③ 宇佐美 香津美	④ 日岡 由季枝
⑤ 桂川 斐斗美	⑥ 三宅 恵里子
⑦ 山 歩美（欠）	⑧